

京都教区時報

京都教区広報委員会
 (編集長 村上透磨)
 京都教区本部事務局
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
 ご希望の方は点訳ネット「レジ
 ナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ
 んまでお申込みください。
 TEL・FAX 079-431-8601

3頁 ありがとう、ホセ・モンロイ・ペレイラ神父様

7頁 2017年 教区行事あれこれ

高山右近のゲッセマネ

ゲッセマネの園の出来事は、マタイ、マルコ、ルカは皆、それぞれの特色を生かしながら描きます(ヨハネは独得な形で、ヨハネ12・24〜36参照)。

右近の時代、四福音書の全訳はありませんでしたが、御受難については「御パッションを観ずる道への書(四人の福音書を選び集めて翻訳したもの)」がありました。また「御受難劇」もよく演じられ「ロザリオの苦しみの神秘」の黙想を通して、よく知られ黙想されておりました。「キリストの受難」は、当時の時代状況によく答える福音箇所でした。右近は、この受難物語をよく黙想しました。特に「捕らわれの身」になってからは、このゲッセマネの園のイエスの答えが彼を励まし導いたと思います。大筋はマタイ、マルコで殆ど忠実に描きますが、「血のしずく」(ルカ22・44)また、「アッバ父よ」(マルコ14・34)という言葉で補っています。このように多少の違いはありますが、概して、マルコ、マタイは厳しく、ルカはこの時のキリストの思いやりや優しさを見落としてはしません。

このようなことを踏まえてのゲッセマネのイエスの姿と「捕らわれの右近」の姿がよく重なり合います。こうして次のような問いが生まれます。

- 右近は、捕らわれの身でなにを観想していたのか。
- 右近は、自分の身をゲッセマネの園のイエスの姿に照らし合わせながら、何を観想し、何を理解し、何を学びとったか。
- 右近も「血を流し」ながら「より高い栄光」を求めたか、それは何であったのか、どうしてなのか、どのようなのか。
- 「み旨のままに」と祈ったイエスの願いは、魂の救いを求めるために十字架に上ることであったが、右近は全世界よりも魂を得ることの大切さ(マタイ16・26)、世の権勢より



オリーブ山
ゲッセマネの園

12
2017

も神に仕えることの大切さ(マタイ4・10、ルカ4・8)を観想していいのではないか。

○キリストの「武士」「証人」として何を大事にすべきか祈りの中に観想していたのではないかと考えてみるのです。

さて、当時の福音書はマタイを中心に語られていたので、主にマタイに従ってゲッセマネのイエスと右近をくらべてみたらよいと思います。

まず、よくなされる解釈は、このイエスの姿を見て、孤独と絶望的な悲しみに沈む時の、励ましとするというものです。幼きイエスのテレジアもこのゲッセマネのイエスの愛の孤独を学びとりました。その他多くの聖人、そして現代の多くの人の靈魂の暗夜に光をもたらしました。ところでゲッセマネのイエスと「捕ら



われの右近」を照らし合わせて、なぜ右近が殉教者(マルチル)であり、信仰の証し人(マルチル)であるかが分かるような気がします。

それをいくつか挙げてみます。

一つは、右近は神のみ旨が何であるか、そのみ旨を知り、それを果たすための血の汗を流したキリストにならおうと身を置いたのです。また、「世界(世の権勢、富、名譽)を得ても、もし魂を失ったら何の益があるか」(マタイ16・24、28)という「問いかけ」をフランシスコ・サベリオのように、聞いて答えようとしたということ。そのため、全てを置いて従うべきものは何か(マタイ16・24、28)に答えようとはします。それには一つの声に加わります。「全ては空しい、神に仕えることの外は(キリストに倣いて)」という言葉です。

右近は、このように述べます。

「私は武士でござる」。それで「私が命をかけて仕える方は誰か」「私はキリストの兵士」である。それで、私がまず命をかけて従う方はキリストである。

私は世の王に対しても尊敬をもって命をかけて仕える。しかし、それ以上の方が居られる、それは私達の主イエス・キリストとその御父である。私は(世の

神)秀吉ではなく、真の神を選んだのである。

もし秀吉が「自分を拝め」と言わなかったら、喜んで仕えただろう。だが、彼は「私を主として私を選ぶか、キリストを主と選ぶか」と牙をむいて迫る。私は主を選ぶ、全てを奪われ、丸裸にされても……。

私達の中にある、原罪とでもいべき罪は、偶像崇拜の誘惑に負けることである。

人祖以来犯した罪、墮落した大天使ルチフェルが陥った罪、(自称)義人聖人と呼ばれる人が陥り易い罪。富と力、地上の名譽、自分の義、高慢、エゴイズム、欲望等との戦いが常に形を変えて襲ってくる。右近はそれに勝った。

ゲッセマネのイエスと、捕らわれの右近に共通するもう一つのことを、見逃してはならないと思う。それは祈りであり、黙想であり、観想である。右近の靈性の根本はこれを見る。

祈りは、神のみ旨と栄光を啓す。

祈りは、命をかけ、愛と信仰の奉仕に招く。

祈りは、愛と恵みと謙虚さを生み出す。

祈りには、聖靈が働く。

聖靈は、証すべきことを証し実らせて

下さる。

私たちは祈る、キリスト者だから。

キリストを信じ、愛し、希望を置くものだから。

私たち人間は「神との対話」であるから。

最後に、イエスは弟子たちに語りかける。「さあ出かけよう」、その目前に「十字架の道」が待っている。

しかし、その道は「愛と謙りの道」。そして、それは「復活と栄光の道」「永遠の道、神の道」を歩む。

それは「キリストの道」である。

キリスト者は「キリストの道」を行く者」と呼ばれる（キリストが愛したように愛する道）。

更にそれは「マルチルの道」。

マルチルは、信仰の「証」命をかけた「証」。

また「殉教」と呼ばれる。

「殉教者の血（命の勢）」は、キリスト者の種」だと言われる。

右近は「良い土に蒔かれた良い種」となったが、私たちはどうだろう。

右近の生き方は、私たちの信仰に問いかける。右近の蒔いた種は、私たちのここにも実るのだろうか。

「どうですか、キリストに愛されている兄弟姉妹たちよ」。

(村上 透磨)

ありがとう、

ホセ・モンロイ・ペレイラ神父様

メキシコへ帰国

10月23日、ホセ・モンロイ・ペレイラ神父様（グアダルペ宣教会）が京都を去られました。神父様は7月から休暇でメキシコに帰国され、10月6日に京都に戻られていましたが、健康上の問題により、日本での宣教活動を終えて帰国されることとなったのです。

お別れの日があと1週間に迫った10月16日、いつものように、河原町教会の台



所で朝食の準備をされていた、モンロイ神父様にインタビューを申し込み、一緒に食事をしながらお話をうかがいました。

手際よくおしゃれな自炊生活

この朝、モンロイ神父様は、レンジの前で鍋を見つめていました。卵がゆで上がると、殻をむき、黄身を取り除き、白身だけを簡単にほぐし、それにレモンを搾ってまぶします。白い皿に盛り、赤いミニトマトを添え、そして、ヨーグルトとトースト。ろ紙を使ってコーヒーも淹れました。いつも短時間で手際よく、健康的でおしゃれな食事をおつくりになります。行きつけのスーパーは御池地下街ゼストにある三杉屋。神父様の冷蔵庫をそとのぞくと、外国製の缶詰、チーズ、マッシュルーム、ブロッコリー、ローファットミルクなどが並んでいます。とにかく、台所におられるモンロイ神父様は、味わい深く、カッコ良く、サマになっていました。

「わかりませんねえ…」

モンロイ神父様は1938年、メキシコのグアダラハラでお生まれになりました。子どもの頃はサッカーやバスケット

ボールが好きでしたが、14歳で神学校に入学。「どうして神父になりたかったのですか?」とお聞きすると、「わかりませんねえ、なんとなくそうになりました」、ニコリと笑いながら、そう答えました。これこそ、真実に違いないと思わされました。今にいたるまで、司祭をやめたくなかったことなどないそうです。大変なこと、苦しいことは多かったですけれど、人の役に立てるのがうれしとおっしゃっていました。

お母さんは大泣きました

26歳で叙階され、27歳の時に来日。知っている先輩がいる韓国に行きたかったけれど、上長の命令に忠実に従い日本に来ました。

神父様のお母さんは16人の子どもを授かり、神父様はその14番目。司祭になったのはご兄弟で一人だけだそうです。お母さんは司祭になったことを喜び、笑顔で日本への旅立ちを見送ってくれましたが、神父様の姿が見えなくなってから、大泣きしていたことを後でお聞きになりました。

六本木のフランススコ会に寄宿して日本語を学び、会津で仕事を始め、みなさんに親切にされ、また洗礼を受ける方も

多く、大きな喜びを感じました。多くの人に洗礼を授けることができたことが、日本での最高の思い出だそうです。

その後、盛岡、須賀川、喜多方などで教会や幼稚園で働き、グアダルーペ会日本管区長の重責も果たし、京都教区に来てからは、山科教会や河原町教会、アヴェマリア幼稚園などで活躍されました。聖堂で黙想されるお姿、ロザリオを練りながら廊下を行き来するお姿が心に残っています。

お互いに祈り合いました

メキシコに帰られてからは、グアダラハラの小神学校内の建物で生活され、療養しながらも、必要な仕事があれば手伝われるそうです。神父様の好きな聖書の言葉は何ですかとお聞きすると、「ええと…、日本語が出てきません。詩編の8編の、あの言葉です…」と、しばらく考えておられました。ついに出てきました。私の勝手な推察だと、「あなたの指のわざである天を仰ぎ、あなたが造られた月と星とを眺めて思う。なぜ人に心を留め、人の子を顧みられるのか。」という神への賛美だと思いましたが、確認はできません。

日本のみなさんへのメッセージは、「私

のために祈ってください。場所は離れていても霊的にはいっしょです。お互いに祈りましょう」。

50年以上にわたり日本での宣教活動に献身してくださいましたモンロイ神父様に感謝し、神父様の今後の歩みの上に神様の恵みがゆたかにありますようにお祈りいたします。

ありがとう、モンロイ神父様!

京都教区広報委員会
担当司祭 菅原友明

「神学生志願者の集い」と

「一粒会の日」

8月19日(土)20日に、滋賀県高島市にて、京都教区の神学生志願者の集いが開催され、司祭召命を考えている青年5名が参加しました。

この集いには、大塚喜直司教、北村喜朗師、一場修師、奥村豊師、菅原友明師、大塚乾隆師の6名が同行し、青年との語らいの時間を過ごしました。夕食は小さな庭でバーベキューをして、食後、司祭は一人ずつ順番に、自分が司祭となった経緯を分かち合いました。

現在、残念ながら京都教区には神学生が一人もいませんが、今回の参加者のように、司祭召命を考えている青年は決して少なくありません。また、11月18日には「一粒会（いちりゅうかい）の日」が西陣教会で行われ、「司祭職の喜び」をテーマにしたシンポジウム、大塚司教司式のミサ、交流会があり、参加者は司祭召命のために共に祈りました。司祭召命を考えている青年が、神様とともに自分を見つめ、それぞれの生き方を見出し、いけますようにお祈りください。なお、司祭召命について興味のある青年は、司祭までご相談ください。



京都教区広報委員会

教会学校研修会

8月26日、河原町教会ヴィリオンホールにおいて、京都教区教会学校研修会が行われました。教会学校リーダー、および教会学校の活動に関心のある27小教区から59名が、参加しました。テーマは「教会学校の運営について」で、大塚司教が、講師として指導くださいました。

信仰教育委員会では、研修会に先立ち、教会学校をサポートするための参考になさせていただく目的で、教区の全小教区の教会学校担当者対象に、「小学生の信仰教育についてのアンケート」を実施しました。アンケートには、46小教区中39小教区から回答があり、司教様は、このアンケート回答をふまえ、教会学校のリーダーが、子どもたちと関わるための心構えやヒント、そして、どのようなビジョンを持つべきかについて、お話しくださいました。また、教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』のエコロジカルな回心と、使徒的勧告『愛のよるこび』の司牧上のいづくしみの原則について解説してくださいました。さらに、アンケート回答に触れられたうえ

で、2004年の司教書簡「子どもたちに生きた信仰教育を行う『教会文化』を創造しよう」が配布され、『日本社会で生きる子どもたちの信仰教育』の意義と重要性、また問題点について語られました。そして、司教様の講話をもとに、小グループに分かれて分かち合いを行い、最後に質疑応答、そしてまとめのお話をいただきました。

参加者は、この研修会で、幼児洗礼の子どもたちの信仰教育に携わるリーダーとして、知っておくべき教会の伝統的な考え方や価値観などを、論理的に勉強することができました。そして、「子どもにどんなキリスト者になってほしい



のか」というビジョンを持つこと、「子どもたちが、神から与えられた自由な意志で、愛の生き方を選び続けていくことを手助けすることが、信仰教育であること」をあらためて確認しました。

「洗礼をとおして、子どもの中に神の愛の真理が芽生えても、大人の世界はこれに反して動いています。物質的な豊かさのみを求め、愛なしで生きること、麻痺させられている現代社会の中に送り込まれる子どもたちに、真の信仰教育を行うことは、教会のためではなく、子どもたち自身のためです。ともに知恵と力を結集し協力して、明日の社会を担う子どもたちを真剣に教育していきましょう」(2004年6月司教書簡より)

京都教区信仰教育委員会

青年のための黙想会

教区の信仰教育委員会主催、「青年のための黙想会」が、10月7日～8日、北村善朗師の指導で、望洋庵において行われ、京都教区内外から、5名の青年たち

が参加しました。テーマは「イエスとの出会い」で、今回はとくに「召命」について考え、黙想し、祈り、分かち合いました。

秋晴れの汗ばむような夕暮れどき、黙想会は「晩課」によって静かに始まりました。

第一講話では、「私たちがキリスト者に呼ばれたのはなぜか。なぜ、キリスト者になったのか」(エフェソの信徒への手紙1・3～6)をもとに、召命(vocation)⇨呼ばれる⇨使命(mission)⇨何のために…。召命がはっきりすると、使命もはっきりすることを、考えました。黙想、聖体顕示、分かち合い、まとめのお話の後、ふりかえりをして、1日目は終わりました。

2日目、西陣教会の主日のミサに与りました。第二講話では、「キリスト者となった私たちは、どういう使命に招かれているのか」(ルカ1・26～38)をもとに、神のマリアに対する望みについて考え、神の望みを仲介する何か(人と人との出会いや出来事)を通して明らかにすること、自分にとってガブリエルは何かを考えました。黙想、聖体顕示、分かち合い、まとめのお話の後、昼食をいただき、その後全体のまとめのお話がありました。

北村師は、召命とは、命(いのち)を

召すこと、つまりイエスを命を預けること、使命(私たちがしなければならぬこと)とは、誰かのために命を使うこと、つまり誰かが生きる力をもらうことだということ、そして、「自分の好きなイエスをみつけることで、そのような自分になるヒントを得る」ことができると、まとめられました。

祈りと黙想によって、イエスと出会い、神と対話し、自分をみつめ、自分の生き方を深く考えた2日間でした。

京都教区信仰教育委員会



時報5月号
掲載



3月20日 ガブリエル大塚乾隆 司祭叙階式

時報6月号
掲載



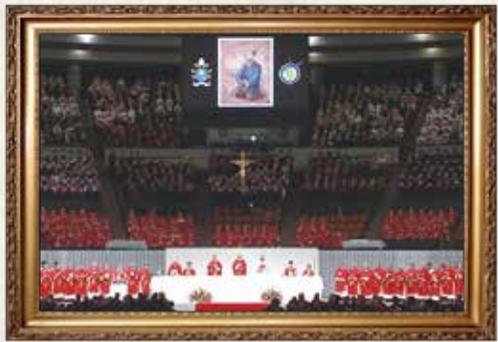
3月27日~29日 侍者合宿

2017年
教区行事
あれこれ



4月12日 聖香油ミサ

時報8月号
関連記事掲載



2月7日 ユスト高山右近 列福式



4月17日 ベトロ山田右師 葬儀ミサ・告別式



2月12日 福者ユスト高山右近列福感謝ミサ



6月17日 河原町教会「新聖堂建立50周年記念明治村旧聖堂ミサ」



4月30日 教区 新信者のミサと集い



7月9日 ベトロ国本静三師 司祭叙階50周年 金祝感謝ミサ



6月15日 パウロ大塚喜直司教 司教叙階20周年 (司祭・司牧者研修会にて)



8月3日～4日 比叡山宗教サミット30周年記念 「世界宗教者平和の祈りの集い」



8月5日～7日 教区 中学生広島平和巡礼

時報9月号
掲載

時報10月号
掲載

イエス様のお誕生日 おめでとうございます!!

よろこべ!!

イエスがお生まれになった!!

「闇の中を歩む民は、大いなる光を見た」(イサヤ9・1)

「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げ知らせているのです」(ルカ2・10)
誠の光キリストによって照らしてくださいました

私たちのために、救い主がお生まれになられたことを、
私たちは信じます。

ご存知のように、キリストの降誕は人々が罪から救われ、
平和と喜びを祝う希望の日です。信仰を強くし、善を施す
よう祈り、キリストがいつも私たちと、共にいて下さるこ
とを、喜びたいと思います。

毎年イエスの誕生を祝っています。色々な形でお祝いし
ます。教会ではミサの時に特別な礼拝をしますが、家では
どのように、クリスマスのお祝いをしていますか？

多分、色々な物を飾ったり、プレゼントを配ったり、食
事をしながら音楽を聴いたり……。

何か一つぐらいは、家の外にクリスマスの飾り付けをし
ていますか？

神様は、この神聖な夜を、誠の光キリストによって照
らしてくださいました。闇に輝く光を見た私たちが、その
喜びを永遠に歌うことができますようにと、クリスマスの
ミサ(集会祈願)で祈ります。

私たちは、イエスがお生まれになったことを信じ、キリ
スト者として証しましょう。まず祈りの中で感謝し、その
頂いた喜びを多くの人と分かち合しましょう。特に家族、
そして隣人、貧しい人、苦しむ人、憐れみ深い人とともに。
この喜びを今日だけでなく、一年中持つことができます
ように。

皆様と共に「信仰、希望、愛」をお祈りしたいと思います。

京都教区広報委員会

担当司祭 アントニオ・カマチョ

12月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 (水) (木)

聖書講座 感謝と派遣のミサ

日 時：7日(水) 10:30

小教区・修道会

河原町教会

チャリティーコンサート

日 時：17日(日) 14:30 開場 / 15:00 開演

入 場：1,000円

聖母学院小学校合唱部

京都ノートルダム女子大学

(ハンドベル)

ソプラノ二重唱(東 朝子・橋本 仁子)

パイプオルガン(桑山 彩子)

河原町教会聖歌隊

男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

待降節黙想会(九里 彰師)

日 時：2日(土) 17:00～3日(日) 16:00

参加費：7,000円

青年の集い

(中川師、Br. 原、Sr. ロサ、Sr. マイラ)

日 時：9日(土) 10:00～16:30

参加費：500円

対 象：高校生以上35歳までの男女

特別黙想会(九里 彰師)

－三位一体の聖エリザベトの祈り－

日 時：9日(土) 16:30～10日(日) 16:00

参加費：7,000円

水曜黙想(九里 彰師)

日 時：13日(水) 10:00～16:00

テーマ：三位一体のエリザベトと三位一体の神

参加費：3,000円

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：3日(日) 14:00 / 10日(日) 14:00

カトリック会館6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：14日(水) 10:00

カトリック会館6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

第4回手話ミサと、クリスマス会

日 時：5日(水) 11:00

会 場：「都の聖母」小聖堂・ヴィリオンホール

参加費：1000円

申込要：Tel・Fax.075(723)1135 傳(つとう) 裕子

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイ A

毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「私のキリスト道巡礼記」

出演は橋本 勲師(長崎教区)

ラジオ(KBS京都) (日)～(金) 朝 5:55

(土) 朝 5:15

12月のテーマ「わたしのクリスマス」

京都カトリック会館 案内

住所 〒604-8006 京都市中京区

河原町通三条上ル下丸屋町423

京都教区本部事務局

住所 同上 カトリック会館5階

TEL 075-211-3025 FAX 211-3041

E-mail honbu@kyoto.catholic.jp

本部事務局内(広報委員会・典礼委員会・
信仰教育委員会)

京都教区福音宣教企画室

住所 同上 カトリック会館7階

TEL 075-229-6800 FAX 256-0090

E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp

京都教区聖書委員会 (水) (木) 10:00～16:00

住所 同上 カトリック会館7階

TEL 075-211-3484 FAX 211-3910

E-mail seisho@kyoto.catholic.jp

京都教区衣笠墓苑管理委員会

住所 同上 カトリック会館7階

TEL FAX 075-211-3476 (水) (木) 10:00～16:00

京都教区カトリック正義と平和協議会

住所 同上 カトリック会館7階

TEL FAX 075-223-2291 (水) 10:00～17:00

カトリック河原町教会 事務所

住所 同上 カトリック会館3階

TEL 075-231-4785 FAX 211-8021

サンパウロ京都宣教センター

(キリスト教図書・用品販売)

住所 同上 カトリック会館1階

TEL 075-256-9678 FAX 231-6700

※ 2018年2月号の原稿締切り日は12月13日(水)です。

大塚司教の

12月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 2日⊕ 9:30 奈良カトリック幼稚園
創立70周年感謝の集い
16:00 京都教区カトリック学校
交流フォーラム(河原町教会)
- 3日⊕ 10:30 司教座聖堂献堂記念日
感謝ミサ(河原町教会)
- 4日⊕ 18:00 教区宣教司牧評議会
書記局会議
- 7日⊕ 10:00 中央協 常任司教委員会
- 8日⊕ 9:00 日本カトリック神学院・
常任司教委員会(東京キャンパス)

- 9日⊕ 13:30 第18回 教区宣教司牧評議会
- 10日⊕ 11:00 大和八木教会 スペイン語ミサ
- 11日⊕ 14:00 司教顧問会
- 14日⊕ 9:00 2017年度 特別臨時司教総会
- 15日⊕ 9:00 司教社会問題研修会
- 16日⊕ 11:00 タルチシオ菊地功
東京大司教着座式
- 24日⊕ 21:00 主の降誕深夜ミサ
(河原町教会)
- 25日⊕ 10:30 主の降誕ミサ(河原町教会)

「ジョバニ」って？

河原町教会 奥壘のぞみ

「ジョバニ」をご存知ですか？ 京都カトリック青年センターが年に4回発行している機関誌です。

教区の中学生会の報告や青年活動の報告、青年が信仰について語ったり、担当司祭がコラムを書いたりしています。「青年センターってどんなことをしているの？」と思っている方や青年活動に興

味のある方、そして京都教区のみなさんに、青年たちの活動について知っていただきたいので、ぜひ手にとって読んでみてください。

青年たちが、今しか出来ない経験や出会いを通して、キリスト者としてこれからどのように生きていくのかを、考えられる青年活動でありたいと思っています。

そんな私たちの活動や考えについてまとめている「ジョバニ」。ぜひ手にとって読んでみてください。



【青年センター-HP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな

